

平成 28 年 9 月 2 日

## 京口門だより No. 35

酷暑の夏が続くかと思えば、台風とともに九月には急に秋の冷やかさを感じるようになりました。このまま秋が進んでゆくのでしょうか？

「新涼の水に老けたり水馬(あめんぼう)」[阿波野青畝]

夏の疲れが出たり、食欲がもう一つでないということはないでしょうか。早めに漢方で整えるようにしましょう。

秋は肺を病むと、漢方の古典には記しています。秋冷とともに咳が出やすくなってきます。アレルギーについても秋はイネ科の植物がアレルギーとなって、鼻炎や喘息を起こしやすくなってきます。また気温の変化に追いつけず風邪をひいて気管支炎を起こしてくることもあります。

漢方では咳や痰を、急性(外感)と慢性(内傷)に分けて考えます。急性の咳はいわゆる風邪をひいて起こってくる気管支炎です。重症になると肺炎を起こしてきます。慢性の咳は急性の気管支炎が治らず長引いて次第に慢性気管支炎に進む場合や、肺気腫、間質性肺炎(肺線維症)、気管支拡張症、或いは肺結核などもあります。気管支喘息も慢性の病気ですが、呼吸困難が特徴で以前にもこの欄でふれました。また長引く咳には肺の腫瘍もあり注意すべきです。

現代医学では抗生物質や鎮咳剤や去痰剤で治療します。いわば原因となる細菌などを排除することが主となります。しかし、ウイルスには効果はありませんし、なかなか咳が治らず長びくこともあります。

漢方では細菌をたたくのではなく、病気にかかわらず咳や痰の状態によって、咳を仕分けし、それぞれに適した薬方を使います。たとえばアレルギー性鼻炎を伴うような咳、咽を刺激して咳込みが激しい咳、横になると激しくなる咳、咳をすると胸が痛くなるような咳、みぞおちに響いて痛くなるような咳、声が枯れて咳込むような咳、百日咳のようにただただ咳込んで止まらないような咳、体が弱ってなかなか治らない咳などなど、数多くの漢方薬があります。また妊娠中に起ってきた咳には漢方薬以外に適切な治し方はありません。

重い肺炎や肺結核などは現代の治療も必要ですが、困った咳には漢方治療があることを覚えておいて欲しいです。

